

産業・人・自然が生き生きと好循環する結のまち

自治体名：福井県大野市

1. 地域特性と課題及び目標

- 星空の世界遺産ともいわれ、米国のNPO団体「ダークスカイ・インターナショナル」が認定する「星空保護区」を取得することを目指して、光害（ひかりがい）対策や星空観光などの取り組みを進めている。
- 中部縦貫自動車道の県内全線開通が2026年春に、北陸新幹線金沢・敦賀間の開業が2023年度末に予定されている。
- 2024年に「市制施行70周年」「金森長近公生誕500年」となり、市勢発展に向けた大きな節目を迎える。
- 2023年3月に大野市脱炭素ビジョンを策定し、2050年のカーボンニュートラルの達成を目指す。

2. 全体計画の概要

人口減少・少子化・高齢化が進行し、さまざまな地域課題が顕在化している一方で、今後数年間で「星空保護区認定取得」「北陸新幹線県内延伸」「市制施行70周年」「中部縦貫自動車道県内開通」などの新たな局面を迎えることから、これらの機会を生かし、「産業」「人」「自然」の観点からの取り組みを強化、好循環させて持続可能なまちづくりの原動力とする。

3. 関連するゴール



4. 2030年のあるべき姿

■ 新たな強みで活気に満ちたまち【経済】

高速交通網の整備や星空保護区認定により、交流・物流の拡大が図られ、観光消費額と雇用確保が実現している。

■ 参加と協働のまち【社会】

市内の公民館を中心に住民主体の地域課題解決が積極的に行われ、市全域で多様な主体が役割と責任を分かち合う協働のまちづくりが実現している。

■ 日本一美しい星空が守られたまち【社会】

星空保護区認定が市民の郷土への自信と誇りを高め、日本一美しい星空をはじめ、豊かな自然を保護・保存しようとする機運が生まれている。

5. 自治体SDGs推進等に向けた取組

■ ほし（星空観光をつなぐ）【経済】

星空を観光資源として活用し、事業者の稼ぐ力の向上とともに、自然を体感できるグリーンモビリティを使った旅を提供し、滞在時間の延長とCO2の削減につなげる。

■ ひと（活動する人をつなぐ）【社会】

「市制施行70周年」を迎えるに当たり、「結」に表される「人と人、人と地域のつながり」をより強固なものにするため、多様な主体が相互に連携する体制を作る。

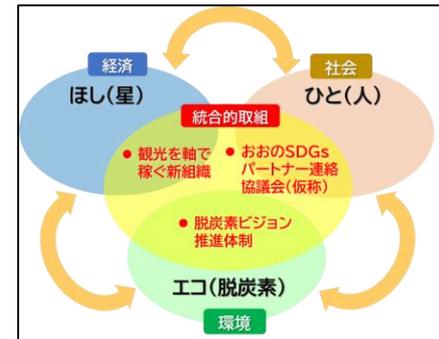
■ エコ（脱炭素をつなぐ）【環境】

市民生活や事業活動における脱炭素行動を普及させ、吸収源対策として森林保全を進める。また、星空を光害から保護する啓発活動も行う。

■ 3つの共創組織の構築【統合的取組】

ほし・ひと・エコの取組みを強力に進めるため、

- ① 観光を軸に稼ぐ新組織
 - ② おおのSDGsパートナー連絡協議会（仮称）
 - ③ 脱炭素ビジョン推進体制
- を構築し、三側面における新たな価値と好循環の創出につなげる。



6. 他地域への展開見込（普及効果）

星の明るさ（夜空の暗さ）、人と人、人と地域のつながりの強さ、森林の豊かさといった田園都市ならではの強みを生かす取り組みは、同様の自然環境を有する自治体のモデルとなり得る。